

上関埋め立て

「免許期限内に」

中電、調査再開へ意欲

中国電力の清水希茂社長は14日、上関原発建設予定地(上関町)の公有水面埋め立て工事について「免許期限内に埋め立てをする意思は変わらない」と述べ、工事に先立って実施予定の

海上ボーリング調査の再開へ意欲を示した。

町役場で柏原重海町長と西哲夫議長を表敬後、報道陣の取材に答えた。

ボーリング調査は、調査に必要な海域の占用許可を受けて昨年11月に着手したが、祝島島民らの抗議行動や悪天候のため中断を余儀なくされ、同年12月に県に占用許可廃止を届け出

た。調査の再開時期について、清水社長は「気象条件や資機材の手配を検討し、理解を得ながらできるだけ早い時期に思っている」と話すにとどめた。

祝島側の理解をどのよう
に得るのか、との問いには
「思いを変えるのは難しい
と思うが、日本のエネルギー
問題はどうあるべきか、
日本全体で議論が進めば、
思いも近づくのではないかと
期待している」と述べた。

(具志堅直)